

## 第4回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 令和2年2月4日（火） 10:03～10:13

2. 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室

3. 出席者 内閣府原子力委員会  
岡委員長、佐野委員、中西委員  
内閣府原子力政策担当室  
竹内参事官、江崎主査

### 4. 議 題

- (1) 令和元年度版原子力白書について
- (2) その他

### 5. 配布資料

- (1) 令和元年度版原子力白書について

### 6. 審議事項

(岡委員長) それでは、時間になりましたので、ただいまから、第4回原子力委員会を開催いたします。

本日の議題ですが、一つ目が令和元年度原子力白書について。二つ目が、その他です。

本日の会議は、10時30分を目途に、進行させていただきます。

それでは、事務局から説明をお願いします。

(竹内参事官) 議題1です。原子力委員会では、東電福島事故以降休刊していた原子力白書を平成29年に再開して以降、毎年度発行しております。来年度は、令和元年度版の白書を作成予定です。

本日は、令和元年度版白書の構成や特集について御説明させていただきます。本年度も原子力委員会において、有識者からのヒアリング等を行い作成を進めていく予定です。

それでは、事務局から説明の方をよろしく願いいたします。

(江崎主査) 事務局から説明させていただきます。

令和元年度原子力白書ということで、福島事故以降、平成29年から再開しており、今回で4回目になるということでございます。来年度には令和元年度版、いわゆる今年度版の内容を記載をした白書を作成させていただければというふうに考えているところでございます。

内容については、毎年発刊しているということもございますが、原子力委員会で策定されている原子力利用に関する基本的考え方を初めとして、原子力委員会の決定文書であったり見解についてフォローアップ、若しくは令和元年度における原子力に関して行われた事項等を含めて記載させていただければと考えているところでございます。

令和元年度版の白書の構成についてですが、前年度の白書の構成と同様に3部構成という形で、特集と各章、更に資料編という形にさせていただければと考えているところでございます。

特集については、平成29年度版原子力白書は、コミュニケーションということで、ステークホルダー・インボルブメント、平成30年度版、いわゆる今年度に発刊されているものについては、原子力施設の廃止措置とマネジメントということで、今年度はどういうことを白書として特集をしようかというところでございますが、ここで記載させているとおり、人材育成を含む原子力利用の基盤的強化ということで、いわゆる原子力利用を進めていく中で、やはり一番重要なのは人材育成、いわゆる基盤的なところではないかというところを含めて、今回特集という形で記載させていただければと考えております。

記載内容については、人材育成を含むということで、海外各国において、政府であったり研究機関、若しくは産業界でどうやって人材育成に関する取組であったり、若しくは原子力教育、留学生、あとはやはり原子力委員会で出している人材育成の見解にもございます就職後の原子力人材の育成という形も含めながら、今回は特集について検討させていただければというふうに考えているところでございます。

次に各章ということで、こちらは先ほど申し上げました基本的な考え方に基づいた構成という形で、昨年度と同様でございますが、第1章に福島の話、第2章に原子力のエネルギー利用の在り方、第3章に国際潮流、第4章に平和利用と核不拡散、核セキュリティの確保、第5章に国民からの信頼構築ということで、第6章に廃止措置及び放射性廃棄物への対応、第7章が放射線、放射性同位元素の利用の展開、第8章で今回、特集等もちょっと重なるところもございますが、原子力利用の基盤強化という形で記載させていただければと考えているところでございます。

最後に資料編ということで、原子力に関連する様々な資料、若しくはデータというところを今年も同様に載せさせていただければというふうに考えているところでございます。

もちろん平成30年度版原子力白書も同様なのでございますが、やはり読者の観点から読みやすいものという観点も含めて記載するとともに、コラムという形で、いろいろちょっと読んでいて分かりやすいというか、一つ海外の事例も含めてコラムを記載させていただければというふうに考えているところでございます。

スケジュールについてですが、今月から来年の夏前までぐらいまで有識者をお呼びして様々な話を聞きつつ、原子力白書の取組に記載できるものについてヒアリングを行っていただければというふうに考えているところでございます。

発刊については、本年夏、今年度、平成30年度と同様かと思いますが、そこで原子力委員会決定ができればというふうに考えているところでございます。

事務方からの説明は以上です。

(岡委員長) ありがとうございます。それでは質疑を行います。

佐野委員からお願いします。

(佐野委員) ありがとうございます。

福島事故以降、原子力が大変難しい中であって、国民に広く原子力の現状と課題を理解していただくという意味で、原子力白書の持つ意味は大変大きなものがあると思います。

構成も2017年の基本的考え方に沿って各項目をアップデートしていく、あるいは新しい項目やサブ項目を入れていくという形になろうかと思います。大変でしょうけれども、どうぞよろしくお願いします。

特集で、令和元年度は人材育成を含む原子力利用の基盤的強化を取り上げるわけですが、福島事故以来、多くの原子力発電所が止まる中で、ある意味で最も重要な足腰をいかに強めるか、あるいは技能をいかに継承するか、将来原子力を担う人材をどのように教育し訓練していくのかという、非常に重要な問題だと思います。そういう意味で、これを取り上げる意味は大変大きなものがあると思います。是非、平易な日本語で、分かりやすい、面白い、ストーリー性があるものにしていただければ有り難いと思います。

以上です。

(岡委員長) 中西先生、いかがでしょうか。

(中西委員) どうも御説明ありがとうございました。非常に詳しい原子力白書となっていて、事務局は非常に苦勞されていると思いますが、内容もなかなか充実していると思います。

特集は、先ほどおっしゃったコミュニケーション、それから廃炉措置、今年は人材育成ですが、人材育成、今までいろいろな細かい章に分かれて入っていたところがあるのですけれども、そこを一つにして特集としていくことは非常にいいと思います。

コラムの数が昨年は一昨年より少なくなっている。コラムは非常に興味深いところなので、大変だと思いますが、少し集めていただければと思っています。

これは多分、英訳とかもされると思いますけれども、よろしく願いいたします。

(江崎主査) 昨年も英語版という形で概要を作らせていただいて、在外の大使館にもお配りしているということでございますので、今回もできればと思っております。

(岡委員長) ありがとうございます。白書はこれで作っていくのでいいと思うのですが、白書は行政のアーカイブというだけではなくて、原子力に関するいろいろな方向といいますか、そういうのが分かるように作るということでおねがいします。今、コラムと言われましたけれども。

それから我々側の決定文書を、いろいろ作っておりますが、それをフォローしていく役割もあると思いますので、それを守ってやっていただければと思います。

海外の根拠をもとに考えるということも。どうしても日本は日本の中だけで話が閉じがちになりますので、そういうところも少し考えてもらうために載せていくという方向もいいのではないかと思います。

人材育成については既に見解とか、いろいろございまして、基本的考え方をヒアリングしたときに発表していただいた就職した後の人材育成について、既にすばらしい発表がありますので、それを踏まえましてフォローしていければと思っております。大学については、今ちょうどヒアリングをさせていただいておりますけれども、それについてもフォローし、考えていくということが重要だと思います。

先生方、ほかに何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それではこれで白書を作っていくということで、原子力白書については、今後、この場を通じて、委員会の場を通じてヒアリングをし、それから作成状況についても説明をしていきたいということでございます。

議題1は以上です。

議題2について、事務局から説明をお願いします。

(竹内参事官) 議題2はその他でございます。今後の会議予定について御案内いたします。次回第5回原子力委員会の開催につきましては、日時、2月12日、13時半から、場所、8

号館 5 階共用 C 会議室、議題は調整中で、後日原子委員会ホームページ等の開催案内をもつてお知らせいたします。

(岡委員長) ありがとうございます。そのほか、委員から何か御発言ございますでしょうか。

それでは御発言はないようですので、本日の委員会は終わります。ありがとうございました。